



本書の重点項目

● 学習指導要領「総則」の「指導内容の重点化」を踏まえて

2 指導内容の重点化

各学校においては、生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。その際、小学校における道徳教育の指導内容を更に発展させ、自立心や自律性を高め、規律ある生活をするこゝと、生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること、法やまじりの意義に関する理解を深めること、自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養うこと、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けることに留意すること。

本書では、「自主心や自律性」「生命を尊重する心」「他者を思いやる心」「弱さを克服して気高く生きようとする心」を重視し、次の内容を重点項目として、三学年を通して各三時間、三教材を配当しました。

本書の重点項目（全学年共通）

- 自主、自律、自由と責任
- 生命の尊さ
- 思いやり、感謝
- よりよく生きる喜び

(C) 生命を尊重する心や自分の弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること

近年、生徒を取り巻く社会環境や生活様式も変化し、自然や人間との関わり希薄さから、いじめや暴力行為、自殺・自傷行為など生命を軽視する行動につながり、社会問題になることもある。人間としての生き方についての関心も高まるこの時期の生徒に、乳幼児や人生の先輩たちと触れ合ったり、医師や看護師などから生命に関する話を聞く機会をもったり、生命倫理に関する問題を取り上げ話し合ったりすることなど、生命の尊さを深く考えさせ、かけがえない生命を尊重する心を育成する取組が求められる。生命を十分に尊重できていない自らの弱さに気付くとともに、それを克服して気高く生きようとする心を育てることもつながる。人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培っていくことは、豊かな心を育むことの根本に置かれる課題の一つである。

特に右の記載には十分配慮し、「いじめ防止」「生命の尊重」については一層充実した学習が図れるよう、発達の段階に応じたさまざまなアプローチから数多くの教材をそろえました。

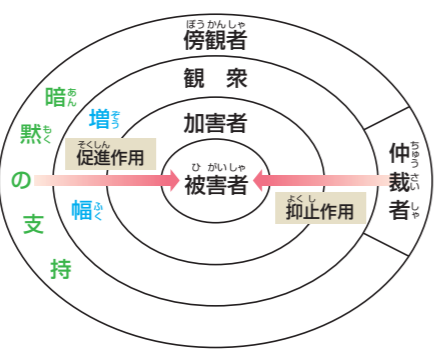
内は、学習指導要領解説総則編の記述

いじめ防止・生命の尊重に関わる教材	
第一学年	④あなたはすごい力で生まれてきた ⑨ヨシト ⑩曙号の死 ⑫ある日のバッテリーボックス ⑬語りかける目 ⑭ふたりの子供たちへ thinking①・③ 別冊：P.26（いじめ撲滅宣言）
第二学年	③樹齢七千年の杉／④燃え盛る炎 ⑤君、想像したことある？／⑥路上に散った正義感／⑦天使の舞い降りた朝 ⑧最後の年越しそば／⑨本物の将棋指し一村山 聖一 ⑩最も悲しむべきことは、病めることでも貧しいことでもなく ⑪看取りの医者／ thinking②・③ 別冊：P.44（生命を多面的・多角的に考える）／別冊：P.26（いじめの構造）
第三学年	②スダチの苗木／⑤誰かのために ⑥卒業文集最後の二行／⑩ひまわり ⑭ピヨ子／⑯母と子のロードレース ⑰ドナー／⑱虹の国 ―ネルソン・マンデラ― ⑲海と空 ―櫻野の人々― ⑳高砂丸とポトマック川のこと 別冊：P.26（世界人権宣言） 別冊：P.44（科学技術の発展と生命倫理） 別冊：P.48（奇跡の一本松）

いじめを防止し、自他の生命を守り、尊重します

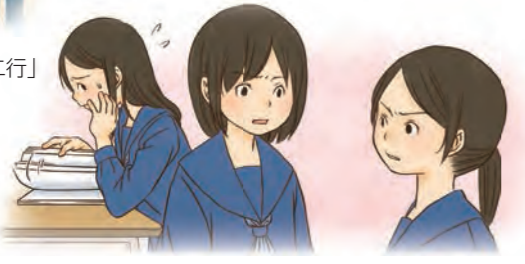


● 人権から考える「いじめ」



▲「いじめの構図」(別冊：2年生)

▲「卒業文集最後の二行」(3年生)



「ピヨ子」(3年生)

● 理論的に考える「いじめ」



▲「樹齢七千年の杉」(2年生)

● 情報モラルから考える「いじめ」

● 神秘性から考える「命」

科学技術の発展と生命倫理

科学技術の発展や医療技術の進歩によって、これまで難しかった病気の診断や予防、治療などが可能になってきた。これらは私たちに恩恵をもたらす一方で、人間の在り方や尊厳に深く関わる技術については、生命倫理上の大きな議論を呼んでいる。科学技術は、人間や社会に重大な影響を及ぼすものである。その使い道を誤らぬよう、誰もが自らの問題として認識し、考えていかなければならない。

- ・ 臓器と臓器提供・代理母
- ・ クローン技術・体外受精
- ・ 遺伝子検査
- ・ 出生前診断など

▲「科学技術の発展と生命倫理」(別冊：3年生)

● 生命倫理から考える「命」



▲「あなたはすごい力で生まれてきた」(1年生)

● 生から考える「命」

それを目指して
生きて行きたい
石川正一

ちとえぼくに
明日はなにも
ちとえ短い道のりも
歩もうとも
生命はっしかないのだ
だから何かをしないでは
いらぬ
精いっぱいもって
くいのない人生を
生きて行きたい
完全にもえつきまじり

● 死から考える「命」